資料４

藤木秀朗氏発表資料

- 研究者中心の国際的日本映画・メディア芸術関連メーリングリストにて意見募集
  （国外中心に約 3000 人登録）
- 理想的ヴィジョンと現実的対策
- 3 つの観点：（1）研究・教育、（2）利用者、（3）グローバル

● **理想的目標：国際的な規模での利用に役立ち、敬意を集める→国内での理解へ**

・**研究・教育に役立つこと**：自国の商品を売り込むよりも、見返りなしの奉仕
利益優先のレジャーランド化は軽蔑を生む
高等教育：メディア通して社会・歴史学ぶ
批判的研究をも受け入れる寛大さ

・**利用者のニーズに応える**：個別の研究者の要望に対する柔軟な対応
（研究者は国際的に比較／フィルムセンター）
一般受けするサービスのみでは軽蔑生む
利用者の要望を真摯に受け止め改善へ

・**グローバルな敬意**：国の機関として、利潤追求よりも教育・研究への還元アピール

⇒**提案**：① 委員会に、**国内外の研究者**を 1 人でも多く参加させること
e.g. Maureen Donovan (Ohio State U), Aaron Gerow (Yale U)
② **著作権**の調整（研究・教育目的の利用に関する特別措置）
③ 作品、作画のみでなく、時期無効となった企業・官庁内資料など**あらゆる関連資料**
（ポルノグラフィーも含め無差別に集めて、アクセスレベルで年齢制限）
④ 国内外機関との**連携体制**構築。e.g.国内外アーカイヴ施設、記録映画保存会
⑤ **長期的展望**。経営ノウハウを民間から取り入れるにせよ、あくまで持続的国家予算を要求。（経済状況に左右されることなく守るべき、国際的な公共的文化財として理解を求めること重要。雇用・サービスの確保。）
～すべてが、国際的な敬意の獲得、存在根拠の正当化につながる

● **現実的対策：ニューメディアの活用による双方向的サービス**

⇒**提案**：年会費グローバル・メンバーシップ制度（ML 登録つき）
① **アーカイヴ利用**（期間内無制限アクセス、電子化に投資必要）
② **利用者ニーズ恒常的調査**
③ オフ会的小・中・大規模の集会へのスペース**提供**　（箱モノ回避へ）
～上記の理想的目標をベースにした運営が国際的敬意につながる

推奨文献：Henry Jenkins. *Convergence Culture: Where Old and New Media Collide*. Cambridge, M.A.: MIT Press, 2006.（コンテンツ産業と消費者・利用者の関係について示唆的）